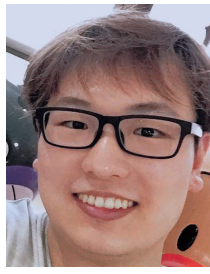


● シリーズ 私の見た日本 Vol.169

CMからはじまる私の建築生活

林 珺敏 (リン ジュンミン)

東京生まれの、中国、グアム育ち。
2012年来日、2015年北海道科学大学工学部建築学科
に入学。現在大学4年生。卒業後、日本のゼネコンで働く
予定。



私は東京で生まれ、中国とグアムで育った中国人留学生です。今年で来日して6年目になります。来日した当初は戸惑うことも多くありましたが、今では日本の生活に慣れ、快適な学生生活を送っています。17歳で来日し、日本の高校に編入しました。来日当初から大学進学を目標にしてきましたが、建築の道に進もうと決めたのは高校3年生の時でした。進路に迷っていた時、日本のゼネコンのCMを見たのがきっかけでした。もともと、ものづくりが好きな私は、ベトナムの首都・ハノイにあるノイバイ国際空港でターミナルビルの建設工事に携わる男性技術者の姿を描いたこのCMに感動し、この地球上で地図、人の記憶や思い出に残る仕事がしたいという思いを強くしました。

私が日本の建築業界に抱いている印象は意匠面から見ると、日本人がデザインした建築物はとても斬新であるということです。それを証明するかのように多くの日本人建築家が世界を舞台に活躍しています。構造設計の面では建築基準法に基づき、一次設計と二次設計が行われています。また、施工現場では作業が細分化され、各工程の品質や工期が正確に管理されています。日本は地震の多い国ですが、地震での死亡率が低い理由には、適切な構造設計と高い施工品質が関係しているのではないかと考えています。

大学3年生の夏、日本のゼネコンでインターンシップに参加し、貴重な現場体験をする機会に恵まれました。実際に体験してみると、考えていた以上に驚かされることが多くありました。日本では現場の安全管

理が徹底されていて、ヘルメットはもちろん、安全靴や安全帯などの装備品の着用が義務づけられています。それに加え、それらが正確に着用されているか、故障していないかといった確認を朝のラジオ体操の時にやるのです。さらに、現場監督が毎日現場を見回り、現場に潜む危険を見つけては排除しています。朝礼でも安全事項の確認を怠ることはありません。また、安全・品質管理に努めるだけでなく、周囲の環境にも十分な配慮がなされ、騒音や粉塵、振動を削減するための取り組みが徹底されています。3日間の現場体験のなかで最も驚かされたことは、足場についてでした。中国やアメリカの一部地域では竹でつくられたものもあるなかで、日本の足場は鉄でつ

くられているうえに構造計算までされているという事実に衝撃を受けました。日本人からするとあたりまえのことでも、中国やその他の国では多くあることではないのです。

しかし、私が建築業界に抱いた印象はよいものばかりではありませんでした。大学入学当時に話題になった建築家ザハ・ハディド氏の新国立競技場案が白紙撤回された騒動には驚きました。彼女のデザインに騒動の原因があるわけではないと思いますが、その頃から彼女のデザインにも疑問を抱くようになりました。彼女が設計した、ジョッキークラブ・イノベーション・タワーがある香港理工大学に私の従姉妹が働いています。利用者の視点から話を聞いた際、建物の曲線によって具合が悪くなることがあ

るとの返答に、建築には意匠デザインよりも実用性の方が重要なのではないかと考えた時期もありました。しかし、建築はこれまでにないもの、世界で唯一のもの、そして利用者が満足するものをつくる時が一番楽しいのだと話す、インターンシップで出会った職人や大学の教授らの姿を目にするうちに、意匠デザインも重要なのだと実感するようになりました。私が建築の道に進むきっかけとなったCMの中で「地図に残る建築はどれも斬新なデザインで、街のシンボルとして皆に愛される建築ではないかと気づかされたのです。建築とは利用者が利用しやすいのはもちろん、つくる側の人間にもつくる楽しさが実感できるもので

ある必要があるのではないかと考えています。

昨今、建築業界に入ってもすぐに辞めてしまう新卒者がいると聞いたことがあります。仕事に対する価値観の差はそれぞれあると思いますが、そんな時こそ今一度ものづくりの楽しさを思い出してみたいはいかがでしょうか。私自身、まだ学生で、これから施工の道に進む素人の一人です。不安になることもありますが、建築は私が選んだ道です。中国に昔から伝わることわざに「船到橋頭自然直」があります。日本語に訳すと「案ずるより産むが易し」という意味になります。私はこの言葉を胸に、建築の道で精一杯頑張っていきたいと思っています。



香港で撮影した竹製の足場



ロサンゼルスで撮影した一部木製の足場



今週の作業予定			
日	月	土 工 事	飛 塵 防 止
21	火	コンクリート打設	同上
22	水	同上	同上
23	木	同上	同上
24	金	同上	同上
25	土	同上	同上
26	日	同上	同上
27	日	同上	同上

上/日本の施工現場では周辺住民に配慮し、騒音計を設置
下/工事内容を記録し、その日の騒音や振動、粉塵を告示している

日本の足場